

分野	第5回審議会での主な意見	対応
指標	・前期の計画の実績を踏まえると、数値に疑義があるものがあるため、数値目標の設定の根拠、考え方を示してほしい。	・「【別紙】総合計画数値目標の設定の根拠・目標に対する考え方」のとおり
	・数値目標の子牛・肉牛の出荷頭数が目標+1頭というのは目標として適切か。	・「【別紙】総合計画数値目標の設定の根拠・目標に対する考え方」⑧のとおり
	・農林畜産の数値目標、取り組みについて、飛騨牛をメインに考えられていると感じるが、栗旨豚や恵那鶏も中津川では有名なものになっており、中津川のブランド力向上のためには飛騨牛以外にも目を向けるとよい。	
	・数値目標の森林整備面積について、面積が少ないのではないか。	・「【別紙】総合計画数値目標の設定の根拠・目標に対する考え方」⑨のとおり
	・数値目標の「満足度」について、主観的でわかりにくい。ネットプロモータースコアの併用も含めて今後の検討課題としてほしい。	・次回の市民意向調査の実施に向けて検討する。
	・計画期間の途中で目標が達成された場合に目標設定の組み替えを検討していただきたい。	・原則として基本計画においては前期5年間の実施後に見直しを行うこととするが、基本計画の下位に位置付ける実施計画においては短い期間で目標値の見直しが実施できるように検討を進める。
観光	・観光の分野においてリニア中央新幹線のアドバンテージが得られるのはもっと先で考えた方がよい。リニアはあくまで手段であり、リニアが開通した際に訪れたいまちをつくる必要がある。	<p>・取り組みの内容における【観光資源の確立】において</p> <p>「森林や清流に代表される自然や歴史・文化などのもともとある魅力とリニアを活用した観光の推進など新たに生まれる魅力を磨き上げ、プロモーションをすることで、観光資源としての確立とオフシーズンの魅力の掘り起こしを図ります。」</p> <p>を</p> <p>「森林や清流に代表される自然や歴史・文化などのもともとある魅力と今後新たに生まれる魅力を磨き上げてプロモーションをすることで、観光資源としての確立とオフシーズンの魅力の掘り起こしを図り、訪れなくなる中津川市を目指します。」に改める。</p>

分野	第5回審議会での主な意見	対応
将来都市像	・「WONDERFUL WOODs」と「ほどよいまち」では意味が伝わりづらいため、「WONDERFUL WOODs」を将来都市像とし、副題は分かりやすく「ワクワクする森」などの将来都市像を説明する文言とするほうがよい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種意見を総合的に勘案し、市の将来都市像を「WONDERFUL WOODs ～ワクワクする森 なかつがわ～」とし「ほどよいまち」の要素は説明の中に盛り込むこととする。</li> </ul>
	・2つの将来都市像が主題、副題と並列となると良さを打ち消し合ってしまう。	
	・「WOODs」という言葉に引っかかる部分があると思うが、これに注目してもらい、見る人に印象付けられるとよい。	
	・「ほどよい」については、最初に「～するほどよい」として、その後に、だから「ほどよいまち中津川」なのだと出せるとよい。	
	・将来都市像単体で検討するのではなく、施策等から言葉がでてくるとよい。	
	・将来都市像「WONDERFUL WOODs」と副題「ほどよいまち なかつがわ」がずれていることについて違和感がある。	
	・「ワクワクする森」は「森」のイメージが強すぎるのではないか。	
	・中津川市はものづくりなども盛んなので、「WONDERFUL WOODs」と「ほどよいまち」を上手に紐づけられるとよい。	
その他	・誰が、どのように目指す姿を実現するのか、具体的な内容を記載してはどうか。	・具体的な取り組みについては実施計画において定める。
	・基本計画の政策3において、計画の体系の図と計画本編の各施策の順番が異なっている。	・指摘のとおり改める。
	・将来都市像、重点施策では人口増加を主眼にするとのことだが、基本計画の政策3において移住・定住が最後にあるのはどうか。	・項目名の「共生・協働・定住」の順に並べており、優先度や重要度ではないため現状のままとする。
	・基本計画の基本計画の概要1-2にある図がもっと分かりやすくなるとよい。①計画の体系と色を合わせる②政策と施策のブロックの高さに差をつける③破線と〔が不要ではないか	・指摘を踏まえて修正する。

目標設定項目	現状値(R6)	現状値の根拠	目標	将来値(R13)	目標の根拠・目標に対する考え方
①市民満足度	-0.1	R6年度に実施した市民意識調査により、各施策の満足度の平均値により算出した。 -5.17(全満足度スコアの合計値)/50(全満足度スコアの数)=-0.1034	0.65(増加)	0.55	・現計画において、H25年度からR6年度までの市民満足度スコアが0.63上昇していることを受けて、市民満足度スコアを現状値(R6年度)からR13年度までに0.65上昇させることを目標とした。 ・市民意識調査において、「満足」から「満足でない」の5段階で評価したそれぞれの評価を1段階上昇させることを目標とし、各段階の人数の10%、12%、14%、16%のいずれかを満足度スコアの値に基づき算出し、上昇目標人数を算定した。
②中津川市民の健康寿命	80.8(男) 85.0(女)	国保データベース(KDB)システムより算出されるデータを使用しています。	0.4(増加)(男) 0.7(増加)(女)	81.2(男) 85.7(女)	・「健康寿命のあり方に関する有識者研究会」より、健康寿命の将来推計等を参考にした目標が、「2016年から2040年までに3年以上延伸」とされている。この目標において「健康寿命」とは「要介護度2以上を除いた数」(≡自立生活できる人)としている。 市ではH29年を基準年としてR22年(2040)までに健康寿命を3年延伸することを目標に今まで施策に取り組んでおり、その目標を維持することとして、R13年の目標値を記載のとおりとする。
総ごみ排出量(t)	23,940	R6年度実績値	-75	23,865	・総ごみ排出量は、人口減少に伴い自然減が予想されるため、取り組みの成果がより明らかとなる「市民1人1日当たりのごみ排出量(g)」に指標を変更する。
③市民1人1日当たりのごみ排出量(g)	884	R6年度実績値	-62(減少)	822	・総ごみ排出量は人口減少により取り組みにかかわらず減少が予想される。一人当たりのごみ排出量とすることで、取り組みによる減少を評価することができる。 ・中津川市環境基本計画において定める減少値。市民一人当たりのごみの量を2035年に2018年度比で20%減少させる。
④年間商品販売額(卸売・小売業)※5年毎に調査(百万円)(R3)	122,053	令和3年度の経済センサス-活動調査	5,825(増加)	127,878	・コロナ禍を除く直近の経済センサスであるH28年度調査に基づく市内年間商品販売額である131,253百万円から、人口減少率の推計に合わせて年間商品販売額を推計すると、6,865百万円(約5.23%)の減少が予想される。 ・この数値に対して商業活性化、観光消費額の増加等に取り組むことで、3,490百万円の増加を目指す事とする。 131,253百万円 - 6,865百万円 + 3,490百万円 = 127,878百万円
⑤市内製造品出荷額(百万円)(R4)	432,512	経済構造実態調査	47,488(増加)	480,000	・経済産業研究所の産業構造推計モデルにおける試算より、2040ベースケースにおける労働生産性の成長率(年率)の1.2%を乗じて算出した。

目標設定項目	現状値(R6)	現状値の根拠	目標	将来値(R13)	目標の根拠・目標に対する考え方
⑥市内観光消費額（推計）（百万円）	18,045	毎年実施する岐阜県観光入込客統計調査による観光入込客数と観光マーケティング調査（観光局実施）による1人当たり観光消費額を掛けることにより算出した。  観光入込客数（延べ人数）4,284,074人×実人数補正62.1%×1人当たり観光消費額6,782.77円	3,518(増加)	21,563	・観光入込客をコロナ前水準である485.9万人へと回復させ、その後、年10万人（約2%成長）を目指す。 ・1人当たり観光消費額は、R3調査開始からの4年平均5,814円から、毎年約2%成長を目指す。 ・観光入込客数目標（延べ人数）525.9万人×実人数補正61.4%×1人当たり観光消費額6,678円
⑦主要品目(米、トマト、ナス、栗)の生産量(t)	7,694	・米については、主食用米の作付面積（中津川市農業再生協議会で把握している面積）に中津川市の基準収量（10a当り）を乗じて算出 ・トマト、ナス、栗については令和6年産のJAひがしみのへの出荷実績	6(増加)	7,700	・人口減少と農業者の高齢化が進む中で農業者の減少が避けられないため、新規就農者の育成や、認定農業者等が行う経営発展等の取り組みへの支援を通じて、直近の実績値を維持することを目指す。
子牛・肉牛の出荷頭数	2,229	・令和7年2月1日現在を調査する「家畜・家きん頭羽数調査」時に各農業者から回答された出荷頭数の合計	1(増加)	2,230	鶏、豚などの他の畜産についても評価の対象とすることが適切であるため、指標を「市内畜産産出額(千万円)」に変更
⑧市内畜産産出額(千万円)	603	R6年度畜産関係出荷額（子牛、肥育牛、豚、肉用鶏、卵、牛乳）	維持	603	・人口減少と農業者の高齢化が進む中で農業者は減少するが、新規就農者の育成や、認定農業者等が経営発展等に取り組むための支援を通じて、直近の主要な畜産関係出荷額を維持することを目指す。
⑨森林整備面積(ha)	287	R5年度実績値	2,150(増加)	2,437	・令和9年から令和13年までの5年間で2,150haの森林を整備することを目指す。 現状値(287ha) + 430ha × (R9～R13) = 2,437 ※計画期間外であるR6～R8は除く
⑩自主財源比率(%)	42.3	決算統計における自主財源比率 R6年度：自主財源21,691,897千円/歳入総額51,242,830千円＝42.3%	0.7(増加)	43	・中津川市財政計画における財政見通しから推計し、将来的にも健全な財政の維持を目指す。